

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812644		
法人名	有限会社県南ケアシステム		
事業所名	グループホームすまいる中仙		
所在地	秋田県大仙市下鶯野字大谷151		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの収束が見えない中ですが、感染対策を継続しながら面会出来るよう機会を設け利用者様と家族の交流が途絶えない様にしてきました。
長引くコロナ禍の為、外出の機会も減っていますが施設内のレクリエーションや、職員の持ち寄った季節の物に触れて頂き少しでも季節を感じて頂ける様に努めています。
理念に従い、利用者様一人ひとりの笑顔を大切に、毎日を過ごして頂ける様にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「笑顔」をホームのキーワードとして利用者の生活を支えています。外出制限をしていたことで季節を感じる事が難しかったのですが、職員が自宅から野菜や花を持参し、話題づくりの一助にして少しでも季節を感じ取っていただき、利用者が安心して過ごせる環境となるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に掲示し理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。働く者が笑顔でないと利用者も笑顔になれないので働きやすい環境、楽しい職場作り心掛けています。	「笑顔」をホームのキーワードとし、笑顔をやさず支援できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策の為、地域交流の機会がなく残念である。地域のクリーンアップ等の活動について毎月案内が届いている。都合がつく時は職員が参加する様にしている。	町内会から行事や活動参加への案内があり、感染防止のために利用者の参加を見送ることがありますが、ホーム自体は地域の一員として関わるようにしています。ご近所からは野菜の差し入れがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を設置し、事業所、玄関にステッカーを貼っている。運営推進会議を通して入居家族や地域住民への周知に努めている。現在はコロナ流行下につき自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策の為、運営推進会議は書面での開催が続いていたが、5類移行に伴い対面での会議を再開した。外出行事が実施できない為、施設内のレクリエーションを充実し参加者から評価を頂いている。	ホームの取り組み状況を報告し、会議メンバーからはそれに対する意見を出していただいています。	議題を決めてそれに沿って固定メンバー以外の参加者も募り、また、状況報告にとどまらず、意見を引き出す工夫をして会議をサービスの向上に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事務所、地域包括支援センター、福祉事務所との連携を密に図り、利用者のサービスの質の向上に取り組んでいる。	窓口に出向いたり電話で相談する等、日頃から連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で連携し、ホール、リビング等に常に見守りと目配りをして鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。また、身体拘束について年2回社内研修を行い禁止行為について周知している。2ヶ月に一度運営推進会議の中で身体拘束適正化検討委員会を開催、第3者を交え意見交換している。また、高齢者虐待防止関連法については研修の機会を年2回設け理解を深めている。	研修を行うと共に、業務中に発生した事案や言葉遣いについて職員間の共通理解に向けて話し合い、身体拘束及び虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修への参加の機会を設け、制度についての理解を深める様努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、施設の概要、サービスの内容、利用料等を書面及び口頭で充分説明し、理解と納得を頂く様努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	介護計画の見直し時、対面での面会開始等、都度ご家族へ連絡している。体調報告、本人の要望を伝え、ご家族の要望を確認し、コロナ渦であるが、安心できるよう例年より連絡を密にしている。家族要望は常に反映させている。	家族から今後についての相談や要望を受け、カンファレンスで話し合ったりしながら都度対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	代表者は随時、会社全体で管理者会議を開催し、運営方針・情報交換・個々の実績や努力も報告しあい職員の向上心に努めている。職員各自が向上心を持って働けるよう条件の整備支援を行っている。	職員の意見は管理者を通じて法人本部に伝えています。業務改善に繋げたり、利用者の機能の変化に合わせて備品を交換したり等、職員の意見、提案が運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じ、地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会・訪問等を通じサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に訪問し本人や家族から要望や困っている事、また、これまでの生活状況、習慣を伺い、利用初期の不安の軽減に努めている。入所後も不安な事、要望等を確認しサービスに反映させる様努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に面談の機会を持ち、これまでの経緯を伺い現在困っている事、不安な事、入所してからの心配事などを聴きとり職員間で共有している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊かな先輩として、生活の知恵や生き方について教えて頂くという謙虚な気持ちで接する様に努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信で家族へ本人の生活状況を毎月報告している。本人の誕生月に面会を希望される家族も多く要望に応じている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策しながら、馴染みの方が突然来られる事もあったが要望に応え面会して頂いていた。今年度は対面での面会を再開している。その他、手紙や電話を頂いたりして、交流を途切れない様にしている。	受診時に知人と会ったり、年賀状を出す手伝いをしたり、コロナ禍でもできることを続けています。現在墓参りは中止しており、終息後にできることや再開できることを取り入れていきたいとしています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協力して生活できるように、畑作業やレクリエーション、お菓子作りなど、利用者同士が協力して出来る事を見守り、楽しめるように支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再度利用者家族からの相談や、認知症何でも相談窓口にて継続支援が行えるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や選択を尊重し自分らしく生活して頂くことを最優先に努めている。また、意思疎通が困難な場合は日々の生活状況の観察や家族の協力を求め、本人本位に沿うよう努めている。	入浴介助時等、日々のケアの中で意向の把握に努めています。職員は各自メモ帳を持っており、連絡ノートで情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを行い、出生より現在までの生活歴を聞き取りし、本人の性格や生活習慣等分析・把握を行い、支援に取り組めるような体制をとっている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎月勉強会でケアカンファレンスを行い職員間でケアに関する意見を出しあっている。本人、家族の要望を取り入れ介護計画を作成している。	介護計画に沿って日々の記録をしてモニタリングに活かされており、毎月行うカンファレンスで介護計画の見直しに繋げています。家族には事前に要望等を確認しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	生活記録には、本人の様子や介護計画の実施状況を記録している。また連絡ノートを活用し情報の共有に努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の地域行事が一部再開したが感染予防から参加していない。地域の方々との交流の機会が無くなっているが、来年は来てくださいとお誘いあり、交流は途絶えていない。大雨の時にも部落長から避難指示情報頂いている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医やかかりつけ歯科医、及びかかりつけ薬局との連携を図り、十分な医療が受けられるように対応している。また、定期的に受診を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	入居時に協力医に変更していただくこともある他、入居前からの医療機関での受診も継続しています。緊急時以外は毎月の通信で受診結果を家族に報告しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態に変化あった際は、嘱託医へ相談している。必要時は本社配属の看護師と連携をとり、早めの対応に心掛け、適切な診療科へ主治医相談のもと受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関の医療連携室や病院関係者と随時連携できる体制が整っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは終末期対応は行っていないが、認知症やADL低下の重度化になる前の段階で医療や重度化に対応できる施設との連携を密にし、介護経過を本人、家族に対して説明し、話し合いをした上で、方向性を決められるように支援している。	医療行為が常時必要になった場合は家族と話し合い、次の支援に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の気づき・事故発生時の対応の仕方を施設内で研修し確認している(マニュアルあり)。救急救命講習を受講し、救命知識の向上に努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、災害想定の実施。職員・利用者、状況によって利用者の家族や地域住民に参加して頂く様努めている。また、定期的に全職員が夜間想定火災避難訓練も実施している。	消防の勧めで夜間火災を想定して避難訓練を行っています。	訓練の結果、発生した課題について全職員で検討して訓練を重ね、地域との関わり方も含めて安全に避難できる体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い、プライバシーには十分配慮し、一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つける事の無いよう努めている。	言葉遣いや個人情報の取り扱い方は勿論のこと、ポータブルトイレを使用する方に対しては居室の戸が開いたまま使用することのないように配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にその人らしいおしゃれができるよう、衣類の選定など助言し支援している。 本人が愛用している化粧品等の購入も支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた調理法や盛り付けを行っている。また、職員は利用者と共に食事の準備や後片付け等と一緒に取り組んでいる。	ご近所や職員の差し入れの野菜を献立に加え、枝豆をゆでたり、皆で漬物をつくったりして旬の味を楽しんでいます。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立に基づき、カロリーの摂取状況を把握している。また、利用者それぞれの水分摂取量や食事摂取量の把握に努め、支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しと確認を行い支援、必要に応じ介助を行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへ時間誘導している。排泄記録用紙に記入して排泄管理を行っている。	残存能力を活かし、少しの手伝いのできることをしていただいています。適切な誘導や介助によって排泄用品の使用減に繋がっています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や、毎日牛乳を摂取しており、ラジオ体操等軽運動を取り入れている。必要に応じ主治医に相談し内服調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの健康状態や希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。体調不良の利用者に対しては、主治医に相談している。	拒否する方もなく、週2回の入浴を楽しんでいます。入浴をしない日は水虫のある方に足浴をして清潔を保っています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調、希望に合わせた起床・就寝が出来る様支援している。季節に応じた温度管理し快適な就寝環境に努めている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の仕方について、薬剤師からの指示を職員間で共有し、副作用の症状や服薬後の状態を観察する様努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで枝豆の種まき、プランタへ花植えを行っている。また、本人の能力に合わせて掃除や洗濯たみ等の役割を担って頂いている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策の為、外出行事ができない状況が続いている。畑作業、季節の花、山菜等季節の物にふれる機会や、屋内行事を充実させて、少しでも季節感を味わってもらっている。	状況をみながら花見ドライブに出かけており、秋のドライブも検討しています。玄関前でお茶をいただくこともあり、外の空気に触れる機会をつくって気分転換を図っています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かりホームで管理している。現在は感染対策中の為、職員が代わりに買い物に出ているが、コロナ禍以前の外出時は自分で支払える機会を作っている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、一人がけ椅子を配置し利用者が集まりやすい様に工夫している。また、季節を感じられる飾り付けに配慮して安心して生活できる雰囲気となっている。	職員が自宅から持参したり、家族からいただいた生花がいつも玄関、食堂テーブルに飾られており、心温まる雰囲気がつくられています。また、利用者が集まる場所の椅子を交換して利用しやすい空間にしています。換気をしながら感染対策にも配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはゆっくりくつろげる椅子や畳があり、音楽を聴いたり、テレビ観賞ができ、気の合った利用者同士が自由に過ごせる場所がある。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の要望や希望を聞き、家族の写真や思い出の物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように支援している。	家族がぬいぐるみやドライフラワー等を持ち込んで室内を飾り、利用者が安心して過ごせるよう環境を整えています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の力で安全に移動出来る様手すりを設置している。トイレには、目線に合わせて大きい文字で看板設置してわかり易いよう支援している。		